

レッツ豪！ くりすてきな世界 Kristyと交流しよう！

遅くなりましたが、皆さん明けましておめでとうございます！

2026年が始まりました。新年の感覚が馴染むまでには、少し時間がかかりますね。

私はまだ日本語の日付の書き方に慣れていません。なぜかという、オーストラリアと日付の順序が違うからです。日本が「月・日・年」なのに対し、オーストラリアの英語では「日・月・年」が基本です。なので、イベントの招待をもらったり、スーパーで食品の消費期限を確認したりする際は少し時間がかかります。

また、オーストラリア出身の私は雪にもまだ慣れていません。先月、長野市で生まれてから初めての雪を見ることができました。雪を初めて見た日、まるで私たちが眠っている間に、まるで世界が魔法にかかり変わってしまったかのように感じたことを覚えています。雪が降る中、職場へ向かう感覚は新鮮で、特別な思い出になりました。第4号の12月ニュースレターでは、オーストラリアの「夏のクリスマス」を紹介しましたが、年末年始に冬を過ごすことは私にとって新しい経験です。厳しい寒さの中でも、雪が降るといふ新鮮な感覚を存分に楽しんでいきます。

それでは皆さん、今年からは2026年なので書き間違いに注意しましょう！

今年もどうぞよろしくお願いたします。



I'm a little late, but Happy New Year everyone!



2026 has begun. When the new year begins, it can be hard to get used to writing the new date.

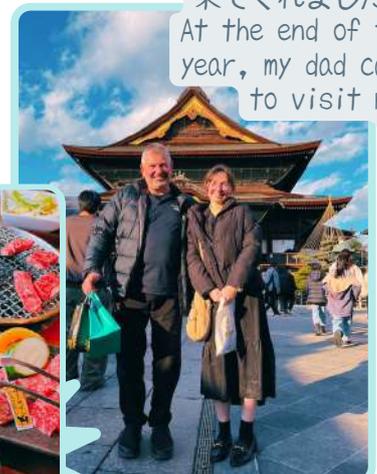
I'm still not used to the Japanese dating system. This is due to the order of the dates being different. Unlike Japan's "Month / Day / Year," Australian English uses "Day / Month / Year." That is why when I receive event invitations, or when I check product expiry dates at the grocery store, it takes me a little while to read the dates.

Another thing I'm still not used to is snow. I got to see snow for the first time in my life in Nagano City last month. That first time, I remember feeling as if the world magically transformed while we were asleep. The memory of walking to work amidst the falling snow is still fresh in my mind. It's become a very special memory to me. In the December newsletter, I introduced the Australian summer Christmas and spoke about how it's a completely new experience for me to feel winter during the end of year to start of the new year. I'm really enjoying it; even in the harsh cold.

And with that everyone, let's remember to not miswrite 2026 going forward!

I look forward to serving you this year too.

年末年始にパパが来てくれました！
At the end of the year, my dad came to visit me!



同期とパパとのランチ
Lunch with coworkers & my dad



一月 2026年

JANUARY 2026



日 SUN 月 MON 火 TUE 水 WED 木 THU 金 FRI 土 SAT

28	29	30	31	01 Happy New Year 	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12 	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26 	27	28	29	30	31

HOLIDAYS & EVENTS

- 1st: New Year's Day
- 12th: Coming of Age Day
- 26th: Australia Day ↩

The day Australia was founded!

Because of the poor treatment of indigenous peoples in the past, this is a sensitive day. Ultimately, this day is not about celebrating the suffering of Aboriginal people, but about celebrating the goodness of modern-day Australia.

On this day, we like to eat lamb ♡



祝日・イベント

- 1日: 元日
- 12日: 成人の日
- 26日: オーストラリア・デー ↩

オーストラリアの「建国記念日」!

過去、先住民への不当な扱いのため、微妙な祝日です。結局、26日はアボリジニ人の被害を祝うわけではなく、現在のオーストラリアの良さを祝う日です。

この日は、ラムを食べるようにします ♡



今回のテーマ

オーストラリアの音楽 (ラジオの文化)



前号ではオーストラリアの夏のクリスマスを紹介しましたので、今回は同じオーストラリアの夏に関係があるテーマについて話したいと思います。それは、オーストラリアの音楽です。

読者の皆様は、日本とオーストラリアでは、季節がちょうど正反対になることを知っていますでしょうか？【ながメル魅力】第3号でもご紹介した通り、1月のオーストラリアは夏休み期間です。

オーストラリアの1月は夏休みですので、のんびり過ごす期間です。夏の間にはリラックスするため、バックヤードでバーベキューをしたり、ラジオを聴いたりすることが一般的です。私の実家では、ラジオがいつでも付けっぱなしにしたままなので、ラジオのない夏は想像できません。オーストラリアの人々に『夏の音』を尋ねれば、多くの人から『ラジオから流れる音楽だ』という答えが返ってくるはず。毎年1月に、「Triple J's Hottest 100」というラジオの楽曲ランキング番組が行われるほどラジオは人気です。

Triple Jは若者向けラジオ局で、全国的に放送されています。前に述べたように、毎年、有名な楽曲ランキング番組を行っています。この番組は、前年のヒット曲を収集し、100位から1位までカウントダウンしていきます。多くのオーストラリア人にとって、この放送日は楽しみになっています。Triple

Jはオーストラリアのラジオ番組であることから、地元のアーティストを積極的に後押ししています。

画像：トリプル・ジェイのロゴ

このページで、長野市とメルボルン市について、面白いポイントを紹介させていただきたいと思います。



オーストラリアの音楽って？

オーストラリアの音楽と言えば、どんなイメージを持ちますでしょうか？

おそらく、即答できる方は少ないでしょう。オーストラリアは豊富な音楽の歴史があるにも関わらず、オーストラリアの音楽は海外に浸透することが少なく、仮に浸透しても、オーストラリアのアーティストはアメリカのアーティストだと思われがちです（泣）

音楽は言葉が通じなくても、人と人をつなぐ能力があります。私はそもそも、日本の音楽をきっかけに日本語を勉強し始めたので、音楽の力がよく分かります。たった一つの曲でも、人生にもものすごく影響を及ぼさせることができます。



今回はTriple Jラジオ局のように、オーストラリアの大ヒット楽曲を紹介いたします。もし興味がありましたら、聴いてみてはいかがでしょうか？♪

次のページをご覧ください！



Am I Ever Gonna See Your Face Again? - The Angels (1977)

これはオーストラリアのロックソングを象徴する音楽の一つでしょう。この曲は長い伝統があり、独特な雰囲気を持っています。昔、「ザ・エンゲルス」がマウントアイザのパブでこの曲を演奏していた時のことです。観客の中から、コーラスに合わせてこのように「やじ」を飛ばす者が現れました。↓

♪ Am I ever gonna see your face again? ♪
♪ No way! Get f*cked! F*ck off! ♪

その時から、このやじが普及し、今までもオーストラリア人がこの曲を聞いたら、やじを叫びます。バンドはそのやじに抵抗するどころか、むしろ面白がって煽るような反応を見せました。これは楽しくふざけるのが大好きなオーストラリア人の性格がよく表れたエピソードです。ぜひ叫んでみてください!



いくつかの
オーストラリア
大ヒット楽曲!

Khe Sanh - Cold Chisel (1978)



「コールド・チゼル」は国内で最も知られているオーストラリアのバンドの一つです。「Khe Sanh」(ケ・サン)の歌詞は、ベトナム戦争で退役軍人として帰ってきたオーストラリア人が、平凡な生活になじむことを苦労しているものです。「Khe Sanh」というタイトルは、ベトナム戦争での歴史的遺跡に由来しています。このリストにある他の70~80年代の曲と同様に、私のお父さん世代の方に人気があります。

Working Class Man - Jimmy Barnes (1985)



この曲は「Khe Sanh」と同じ人かすれた声の特徴のジミー・バーズが歌っています! 彼はオーストラリアの音楽史において偉大な存在です。パブのジュークボックスで流れる音楽「パブ・ロック」というジャンルの中で、代表される曲です。そして、歌詞は収入でやりくりするのが難しいブルーカラーの人について歌ったもので、「ヒーローが活躍する話」より「負け犬が成功する話」の方を好むオーストラリア人の性格がよく表れた歌詞です。

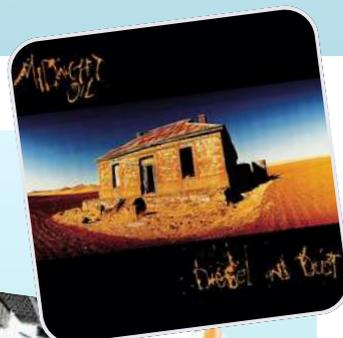
Need You Tonight - INXS (1987)*



「INXS」(イン・エックス)は国際的に知名度が高い80年代のバンドですが、オーストラリア出身だとあまり知られていません。曲の特徴的なリフは、ギタリストのマイケル・ハッチェンスが空港へのタクシーに乗り込むところで、ふと頭に浮かび、直ぐに録音する為、あわてて家に駆け込み、タクシー運転手が1時間以上待たされることになったそうです! でも大ヒットになり、上手くいきましたね!

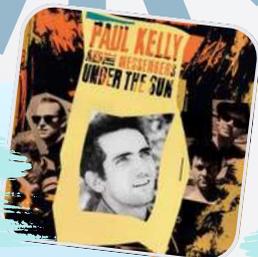
Beds Are Burning - Midnight Oil (1987)

「ミッドナイト・オイル」が大好き! 多くのヒット曲がありますが、この曲は、オーストラリアの先住民に対する土地権利の浸食について歌ったものです。非常にローカルな問題であるにも関わらず、当時たった1曲の歌に乗り世界中知られるようになった事実を知り驚きました。歌手ピーター・ガレットとバンドは、先住民への不当な扱いを見てこの曲を書きました。30年後、2007年に、ガレットは政治に転身し、労働党により環境・国家遺産・芸術大臣に任命されました。



*JOYSOUND可能!

Dumb Things - Paul Kelly (1987)



私はこの曲のハイテンションさになれるところが特に好きです。ハーモニカが奏でる音は、アウトバックを思い出させるような響きを感じます。ポール・ケリはカントリーシンガーとしても知られ、ジミー・バーンズと同じくオーストラリア文化の国民的スターです。「Dumb Things」は、これまでの人生で犯してきた全ての愚かな過ちを振り返る曲です。

Can't Get You Out of My Head - Kylie Minogue (2001)*

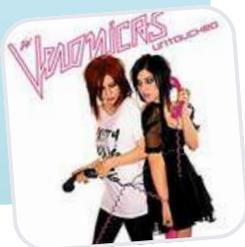


歌手のカイリー・ミノグはニックネームで「クイーン・カイリー」とも呼ばれており、最も有名なオーストラリア出身のポップアイドルでしょう。もともとはオーストラリアのドラマの俳優で、80年代からポップミュージックをリリースし始めました。キャッチーで踊りやすい曲として知られています。カイリーはメルボルンのキャンバーウェル出身で、私の故郷から約30分しか離れておらず、私は彼女の大ファンです♡

Untouched - The Veronicas (2007)*

オーストラリアは日本と違ってアイドル文化がありませんが、「ザ・ヴェロニカス」はアイドルに近いニュアンスを持つグループです。クイーンズランド出身である姉妹コンビで、2000年代にデビューしました。ミレニアル世代とZ世代は同じく「ザ・ヴェロニカス」のことを懐かしく思い、この曲を聞くと盛り上がります。

また、彼女たち姉妹の誕生日は
クリスマス当日 (12月25日) !



The Sweet Disposition - The Temper Trap (2009)*

今まで挙げた曲の中でも、特に好きな曲です。2000年代に育ってきた私にとって、この曲は深く心に響きます。「The Sweet Disposition」は人生を精一杯生きることについて歌った感動的な曲です。このメルボルン出身のバンドは2012年の「AFL Grand Final」決勝戦でコンサートを行い、現地で観賞できたことは、忘れられない思い出となっています。ぜひ聴いてみてください!



最後に、

オーストラリア出身であるバンドでは、AC/DCが最も有名であることに間違いありません。しかし、アメリカ出身だとよく勘違いされることがあります。本格的なオーストラリア人のファンは「AC/DC」の代わりに「アカ・ダカ」のニックネームを使っています。

皆様、「AC/DCはアメリカ出身」だと聞いたら、「いや、オーストラリア出身だよ!」と伝えてもらえるようにお願いします!!



≪ AC/DCの
アンガス
・ヤング

NagaMERU Charm

Today's Topic

Australian Music

(& Radio Culture)



In the last issue I introduced the Australian summer Christmas, so this time, I'd like to talk about a related topic—Australian music.

Readers are probably aware by now that while it is winter in Japan, it is summer in Australia. Similarly, readers will also likely remember from the 3rd issue that our summer holidays occur in January.

Because it's the summer holidays, January in Australia is quite a laidback period. Having a barbeque in the backyard and listening to the radio are some common things we do to relax during the summer. In my home, because the radio is always left on, I can't imagine summertime without it. If you asked any Australian what the sound of summer is, many would likely reply with "music from the radio." This is because the radio countdown event "Triple J's Hottest 100" is held annually every January.

Triple J is a radio station for young people, and it is broadcasted country wide. As mentioned before, they host a famous song ranking program every year. In this program, they collate the biggest hits of last year and count them down from No. 100 to No. 1. For many Australians, this program is something to look forward to. Since Triple J is an Australian radio program, they actively promote local Aussie music artists.



Image: Triple J Logo

On this page, I hope to introduce a point I find interesting between Nagano and Melbourne.



Australian music?

If I asked you about Australian music artists, would you be able to name any?

It's a question that befuddles people outside of Australia. Despite Australia having a rich music history, it often fails to penetrate overseas, and in the case that it does, Australian artists usually get mistaken for American artists (how sad!)

Music is one of those things that can cross language boundaries and bring people together. My original impetus for self-studying Japanese was because of Japanese music. Thus, I know how powerful music can be. A single song can have the power to influence the direction of your life.



So today, just like Triple J, I'd like to introduce you to some big Australian hits. If there are any songs that strike your fancy, how about giving them a listen?

Scroll to the next page!



Am I Ever Gonna See Your Face Again? - The Angels (1977)

One of the most iconic Australian rock songs. This song has a longstanding tradition which makes it unique. When The Angels played this song in a pub in Mount Isa, a man in the crowd started heckling after each chorus. It would go like this:

♪ Am I ever gonna see your face again? ♪
 \ No way! Get f*cked! F*ck off! /

Since then, this heckle caught on, and now every time we Australians hear this song we all shout along. I think the way the band encouraged this chant rather than resisting it shows how Australians like to joke around and have fun. Please try shouting along!



Some

Smash Hit
Australian Songs!

Khe Sanh - Cold Chisel (1978)



Cold Chisel is one of the most well-known Aussie bands in the country. This song tells the story of an Australian veteran struggling to adjust to life after returning from the Vietnam War. The title refers to the historical site of a battle in Vietnam, Khe Sanh. Like many of the 70-80s songs on this list, it's popular with people the same age as my dad.

Working Class Man - Jimmy Barnes (1985)



This song and Khe Sanh are sung by the same person—Jimmy Barnes! Can you tell from his iconic gravelly voice? He is a huge icon in Australian history. This song is the quintessential example of “pub rock”—music that plays on a jukebox in a pub. It's also an example of how Australians favour the story of the underdog over the hero, since this song is about a blue-collared worker struggling to make ends meet.

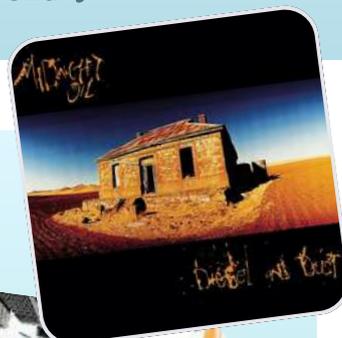
Need You Tonight - INXS (1987)*



Although INXS (“In Excess”) is an internationally renowned 80s band, not everyone knows they originated from Australia. This song has an iconic riff that popped into the guitarist Michael Hutchence's head as he was about to leave for the airport in a taxi. Michael rushed back into his home and the taxi driver ended up waiting over an hour for him to finish recording it! But it became a big hit, so it was worth it in the end ♪

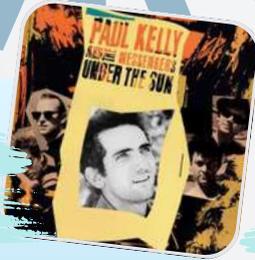
Beds Are Burning - Midnight Oil (1987)

I love Midnight Oil! They have so many hits, but this song managed to become internationally recognised, which is surprising since it is about a very Australian problem—the erosion of Aboriginal land rights. Peter Garrett (the singer) and his bandmates wrote this song after witnessing the unfair treatment of Aboriginal communities. In 2007, he pivoted to politics and became the Minister for the Environment, Heritage and the Arts for the Labor Party!



*Available on JOYSOUND!

Dumb Things - Paul Kelly (1987)



I love the high energy of this song. The harmonica gives it a sound that really makes you think of the outback. Paul Kelly is considered an Australian country singer, and just like Jimmy Barnes, he is also an icon in Australian culture. This song is about looking back on all the dumb mistakes you've made in life.

Can't Get You Out of My Head - Kylie Minogue (2001)*

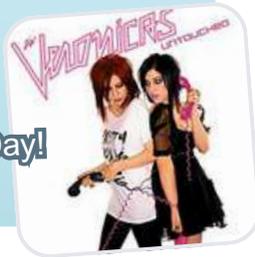


There's a nickname for Kylie Minogue—Queen Kylie. She is probably the biggest female pop star to emerge from Australia. Originally an actor for an Australian soap opera, she began making pop music from the 80s onwards. Her music is known for being extremely danceable and catchy. She was born in Camberwell, a suburb only 30 minutes away from mine! I'm a huge Kylie stan ♡

Untouched - The Veronicas (2007)*

While we don't have idols like Japan does, The Veronicas are perhaps our closest example. They are a sister duo from Queensland who debuted in the early 2000s. Millennials and Gen Z alike fondly remember them and this song always gets us hyped up.

Fun Fact: The Veronicas share their birthdays with Christmas Day!



The Sweet Disposition - The Temper Trap (2009)*

Out of the songs named in this list so far, this one is probably my favourite. For someone who grew up in the 2000s, I have a deep connection to it. It's an emotionally moving song all about living life to the fullest. This Melbourne band performed this song live at the AFL Grand Final in 2012. Being able to experience this song in person is an unforgettable memory for me. Please give it a listen!



Finally,

Out of all bands of Australian origin, AC/DC has to be the most famous, without a doubt. However, they are often mistaken for being from America. Real Australian fans know them by the nickname "Acca Dacca."

My message to everyone: if you hear someone claim that AC/DC is American, **please** correct them!



← AC/DC's
Angus Young

リアルオージースラングで遊ぼう！

オーストラリアの英語は、他の英語よりもスラングが特徴的だと言われています。

スラングはすぐに変化するため、現地にいなければ習得は難しいです。そこでオーストラリア人のように話せるように、このページで最近使われているスラングや言葉を簡単に紹介したいと思います。



今回の言葉

“Heaps”はスラングですが、修飾語です。日本語の「たくさん」か「めっちゃ」と同じように使えます。最も一般的なフレーズは文法的ではなく“heaps good”です（めっちゃ良い）。正しく言いたいなら、“very good”かもしれません。

加えて、「たくさんの」の意味でも使え、例えば、たくさんの人々、たくさんの自動車、などは“heaps of people,” “heaps of cars”となります。

heaps

ヒープス

意味：めっちゃ・たくさん

例を見てみましょう！

“How was New Year’s?”
「大晦日、どうだった？」



“Yeah nah, it was heaps good.”
「いや、めっちゃ楽しかったな。」



“What flavour are you gonna get?”
「何味を頼む？」



“I dunno, there’s heaps.”
「わかんない、たくさんあるけど」



一覧

heaps good	めっちゃ良い
heaps bad	めっちゃ悪い
heaps fun	めっちゃ楽しい
heaps	たくさん
heaps of...	たくさんの...



Let's play with real Aussie slang!

When it comes to Australian English, our slang is said to be more distinctive when compared to other varieties of English.

Because slang develops fast, it can be hard to learn it without being in the country itself. On this page, I'll introduce some modern Australian words and slang so that you can speak like an Australian.



Today's Word

Although "heaps" is slang, it's also a modifier. You can use it like the Japanese 「めっちゃ」 or 「たくさん」. The most standard phrase is the grammatically incorrect "heaps good." If you want to say it correctly, it would be "very good." You can also use "heaps" to mean a lot of something, like heaps of people, or heaps of cars, etc.

heaps

Meaning: very; a lot

Let's look at an example!

"How was New Year's?"



"Yeah nah, it was heaps good."



"What flavour are you gonna get?"



"I dunno, there's heaps."



Quick look

heaps good	めっちゃ良い
heaps bad	めっちゃ悪い
heaps fun	めっちゃ楽しい
heaps	たくさん
heaps of...	たくさんの...

SNSでつながりましょう！ Connect with us on social media!



長野市ホームページ Nagano City Homepage



<https://www.city.nagano.nagano.jp/>

長野市の事なら
何でもここに
あります！
You can find
all things
Nagano city
here!



インスタグラム Instagram



長野観光物産
Nagano Kankou
Bussan
(Tourism PR)



長野市の
国際交流員
Nagano City CIR
長野市の観光・イベント情報
Nagano City tourism
& event information



長野県
国際交流員
nagano_cirs
長野県国際交流員
の活躍、情報
Nagano CIR activities
and information



これでおしまい！
また来月！
That's it!
See you next
month!